

県立市川南高

書道通じ地域で異年齢交流

市川市立信篤小

県代表として全国大会へ出場するなどの実績をもつ県立市川南高書道部の部員13人が先月16日、近隣の市川市立信篤小を訪れ、6年生約160人に書道のコツや基本を教えながら、年齢を超えた交流を楽しんでいた。体育館で行われた授

業では、まず高校生が手本を書いて見せると、子供たちからは「スゲーうまい！」「きれい」などと絶賛の声が上がった。続いて題目の「夢を育てる」という言葉を書き始めた子供たちに、高校生たちは「全体のバランスを考えて」「止めるときは2秒待つてから筆を離す」などと丁寧にアドバイスを素直に受け止めた子供たちは「言われたとおり書いたら上手になった」と喜んでいった。

同部員の横大路由美さんは「少し教えただけですごくうまくなるのでやりがいを感じた」と児童たちの飲み込みの早さに驚いた様子。一方、信篤小の増田航己君と年代紘貴君の2



子供たちは高校生のアドバイスに素直に耳を傾ける

人は「教え方が優しいし、分かりやすい。もっとたくさん来てほしい」と高校生による授業を楽しんでいた。児童に書道を教えるだけでなく、地域連携や異世代交流なども目的としたこの出張授業は、信篤小からの依頼を受けて今回初めて実

現。市川南高の川口俊雄教頭は「これをきっかけにさまざまな面で連携していけたら」と展望を語っていた。

